

2017年1月23日

四国電力株式会社  
社長 佐伯隼人様

未来を考える脱原発四電株主会  
共同代表 本田耕一 佐藤公彦 丸井美恵子 内田知子

## 伊方原発3号機の再稼働についての公開質問状（5）

2016年12月21日付の「貴平成28年11月25日付質問状に係るご回答」を受領いたしました。

私たちは2015年10月以降4度、株主として、消費者として、地域住民として原発再稼働に係る疑問、不安を少しでも解消できることを目指して公開質問状を提出してきました。私たちもまた「しあわせのチカラになりたい。」という当社の想いを共有し、「快適・安全・安心な暮らしと地域の発展に貢献し」（よんでんグループビジョン）たいと考えているからです。

残念ながらしかし、当社の回答からは私たちの未来の「快適・安全・安心な暮らしと地域の発展」は見えてきません。以下、具体的に再度質問いたします。

### 1、原子力発電の必要性および伊方発電所の安全性について

貴回答では、2014年4月に閣議決定された「エネルギー基本計画」の原発は「重要なベースロード電源」という位置付けを根拠にしています。当社の「中期経営計画2020」でも同様です。さて、あらためて質問です。

【1-1 当社は、この閣議決定が変更されない限り、今後も原発を「重要なベースロード電源」とするのですか。それとも当社独自の計画は考えているのですか。逆に言えば、もし、閣議決定の変更があれば、それに従うのか、それともあくまで原発を「重要なベースロード電源」と位置付けるのか。端的にお答え下さい。】

貴回答では、「考えられる最大の地震動を想定したうえで、さらに余裕を持たせた耐震設計」と記されていますが、これは、機器に求められる安全率と混同しているのではないのでしょうか。さて、あらためて質問です。

【1-2 考えられる最大の地震動とはどのようなものを想定されているのですか。具体的にお答え下さい。】

貴回答では「新たに知見が得られた場合には、迅速かつ的確に対策を講じる」と記されていますが、2016年9月に開催された日本地質学会で、四国電力の活断層評価には誤りがあるとして、伊方原発の北約600mの地点に活動的な中央構造線本体があり地震を引き起こす活断層であるという研究成果が発表されました（「四国電力伊方原発の直下で巨大地震が起きうる－熊本・大分群発地震を機に早坂康隆・広島大学准教授らが警告！」『週刊金曜日』2016年10月21日号）。さて、あらためて質問です。

【1-3 当社はこれを新たな知見として把握していますか。把握しているのであれば、迅速かつ的確な対策を講じる準備をされていますか。お答え下さい。】

## 2、MOX燃料の価格と安全性等について

2016年12月21日、政府の原子力関係閣僚会議は、高速増殖原型炉「もんじゅ」の廃炉を正式に決定しました。貴回答によれば、プルサーマルは「重要と考えております」と記されていますが、政府の方針が変わった現在、賢明な経営者ならば新たな経営方針を追求するべきではないでしょうか。さて、あらためて質問です。

【2-1 政府さえ認めざるを得ない破綻しているプルサーマル計画の一端を当社は、なぜ、いつまで担うつもりなのか。具体的にお答え下さい。併せて、伊方3号機を稼働させるとしても、なぜ、MOX燃料よりは価格面、危険性、処分等でまだマシなウラン燃料を使用せず、あえてMOX燃料を使用する意図をお答え下さい。】

## 3、伊方発電所の緊急時対策所について

貴回答には、緊急時対策所の発電所内での位置、床面積、アクセス道路等が示されていません。壁の厚さが最大100cmと記されていますが、最小の厚さとその全体に占める割合が示されていません。外部支援が無くても7日間の活動が可能と記されていますが、それ以降の対応計画はどのようになっているのでしょうか。さて、あらためて質問です。

【3-1 上記についてお答え下さい。】

【3-2 同じく、従来の免震事務所も「有効に活用」するつもりなら、その位置、床面積、収容人数、アクセス道路等、3-1の新規緊急時対策所と同様の数字をお答え下さい。】

#### 4、損益計算書における他社購入電力料について

貴回答によれば、他社購入電力料の増加を2012年（平成24年）7月からの「再生可能エネルギー固定価格買取制度」に求めています。これでは、2011年（平成23年）の132、6%という大幅な伸びは説明出来ません。また、当社の取引先の電源開発会社は販売電力量を公開しています。よって「守秘義務」には当たりません。さて、あらためて質問です。

【4-1 当社の最近10年間の電力購入先、購入電力量、購入単価をお答え下さい。】

#### 5、伊方発電所において建設中のトンネルについて

貴回答には、「1・2号機近傍から3号機近傍に至る既存の道路をバイパスするための道路を新しく敷設するために、トンネル工事を実施しております」と記されていますが、航空写真等によると2号機からこのトンネル入り口に至るには3号機から遠ざかる方向になる一方、現在、1・2号機から3号機に至る経路は既に複数あるように見えます。また、トンネル工事を「今後の諸工事において（中略）車両等の円滑な通行と交通安全の確保を目的として、バイパス道路を新たに敷設する」と記されています。さて、あらためて質問です。

【5-1 トンネルの出口はどこになるのですか。さらに、「今後の諸工事」とはどのような工事なのですか。具体的にお答え下さい。】

以上、再質問は8つです。佐伯隼人社長は年頭にあたり、今年を「熟慮と実践の年」と位置付けられ、「『結い』の精神の下、明るく、仲よく、そして本音で議論する」（四国新聞2017年1月14日付）と言われています。もちろん、私たちも共感いたします。「回答を差し控える」とか安易な「守秘義務」に逃げ込まず、ぜひ、「熟慮」の上、「本音」の回答を期待しています。2月22日（水）までに文書にて本会事務局にご回答下さい。

771-0117 徳島市川内町鶴島120-1  
事務局代表 本田耕一